

The International Journal of Dental Technology, EXTRA ISSUE

歯科技工 別冊

Dental Photo Master

チェアサイド・ラボサイドにおける撮影スタイル

岩田 淳／執筆

瓜坂 達也／執筆協力

医歯薬出版株式会社



ディフューザーを装着したフラッシュ 1 灯を被写体前上方に位置させて側方から撮影。
被写体は子供で、周波状が明瞭に観察できる。



フラッシュ

岩田 淳

歯科臨床写真は通常の写真撮影とは異なり、マクロレンズを使用し高い絞り値で撮影するため、適正な露出を得るためにフラッシュが必要となる。歯科臨床写真で使用されるフラッシュは、ツインフラッシュ、リングフラッシュが一般的である。



リングフラッシュ使用時

図1 被写体を正面から均一に照らすため、影が出にくくフラットな質感になりやすい。



サイドフラッシュ使用時 (ディフューザー装着時)

図2 光が均一になり、影が柔らかくなる、直接光に比べてグレア（テカリ）が減る、などの特徴がある。規格撮影やシェード撮影に適している。



臼歯部のクローズアップ写真

臼歯部のクローズアップ写真の場合、4-7が写真の横幅に収まるように画角を調整する。リングフラッシュを使用するほうが影ができにくいため、撮影は容易である。

口唇・頬粘膜が遮るためサイドフラッシュは不向きであるが、サイドフラッシュを使用する場合は通常180°の位置に設定しているフラッシュを90°の角度になるよう移動させ、撮影部位に口角鉤とミラーを使用して、口唇・頬粘膜の反対側からフラッシュの光が届くようにする。



サイドフラッシュ使用時

2方向から光が入るため、陰影があり立体的な写真になる。

歯肉や軟組織に陰影が強く出る傾向がある。



リングフラッシュ使用時

口唇・頬粘膜にフラッシュの光が遮られにくいため、撮影が容易である。歯、歯肉、軟組織の全体にフラッシュの光が届いている。



背景：黒ベルベット

ライティング：フラッシュ2灯（バウンサー装着、レンズ両サイドに設置）



図 13 背景は黒ベルベットを使用して、バウンサーを装着したフラッシュ2灯を使用して撮影。2方向からの柔らかい光が補綴装置に当たるため、強い影や反射が出でていない。背景の黒ベルベットにより光の反射が抑えられ、黒飛ばしされている。



図 14 補綴装置は黒ベルベットの上に置き、レンズ両サイドに設置したフラッシュ（Nikon リモートスピードライト SB-R200）にバウンサーを装着して撮影。

